

2018年度全国通訳案内士試験
第2次口述試験対策〈特別セミナー〉資料



ありえへんサービスを提供する
ハロー通訳アカデミー
植山源一郎

目次

<第1部> 基本情報

【1】 合格必勝の心構え.....	1
【2】 改正通訳案内士法と第2次口述試験.....	3
【3】 改正通訳案内士法の概要.....	3
【4】 JTBグループが、試験事業から撤退.....	4
【5】 日本出版販売株式会社.....	4
【6】 2018年度第2次口述試験ガイドライン(2.0).....	5
【7】 「外国語訳+質疑」が試験のヤマになる.....	7
【8】 「通訳案内の現場」で想定される質問と回答.....	10
【9】 通訳案内の現場で必要とされるトラブル対応法.....	16
【10】 「ガイドライン」は絶対か.....	17

<第2部> 試験方法・合否判定

【11】 第2次口述試験の試験方法.....	19
【12】 採点及び合否判定.....	20
【13】 第2次口述試験会場.....	21
【14】 2017年度第2次口述試験の実際.....	22

<第3部> 出題分析

【15】 2013年度～2017年度の問題の種類と数.....	24
【16】 2013年度～2017年度の時間帯別問題.....	25
【17】 2013年度～2017年度の出題分析.....	36
【18】 分野別出題項目.....	37
【19】 「日本の事象英文説明 300選」からの出題(その1).....	40
【20】 「日本の事象英文説明300選」からの出題(その2).....	41

<第4部> 対策・予想問題

【21】 通訳メモの取り方.....	44
【22】 <外国語訳><プレゼンテーション>予想問題.....	48
【23】 <プレゼンテーション>対策.....	55
【24】 答の分からない質問に対する対処法.....	59
【25】 話に詰まってしまった時の4段階対処法.....	60
【26】 <プレゼンテーション>例題の回答のまとめ方.....	62
【27】 <プレゼンテーション>予想問題の回答のまとめ方.....	65
【28】 <質疑><質疑応答>予想問題.....	68

【10】「ガイドライン」は絶対か

【1】東京医科大学の不正入試事件

最近、文部科学省の前科学技術・学術政策局長が、自分の息子を東京医科大学に不正に合格させるため、同大学に対し、文科省の私立大学支援事業の選定に関して便宜を図ったという事件を発端として、東京医科大学の入試で、女子合格者を減らすために、女子受験生が一律減点されていたことなどが明らかになり、大きな社会問題となっていますが、**観光庁だって負けてはいません。**♪[負けなくて](#)♪

【2】国土交通省の特徴

中央官庁が持っている様々な許認可権は、中央官庁の最大の権力の源泉となっているのですが、国土交通省は、中央官庁の中でも、許可、認可、免許、承認、指定、確認、検査、検定、届出、証明、認証などの許認可権が最も多い省で、これが、旧運輸省時代から業者との癒着、汚職の温床となってきました。

総務省の調査(※)によると、2017年4月1日現在の省庁の許認可等件数の合計は、**15,475件**ですが、その内訳は、国土交通省(**2,805件=全体の18.1%**)、厚生労働省(2,451件)、金融庁(2,353件)、経済産業省(2,261件)、農林水産省(1,770件)となっており、1年間に約300~400件ずつ増加しています。

官僚の重要な仕事は、省益、庁益のために、**法律、省令、政令、告示**などを通じて許認可権を**拡大させる**ことであり、最終的には、業界団体などを創設して、その理事長職などの天下り先を確保することですが、これは、霞ヶ関の常識です。

(※) [許認可等の統一的把握の結果について\(総務省\)](#)

【3】「昭和女子大学」80%合格指示事件

2014年12月9日に実施された通訳案内士試験第2次口述試験の東京会場(昭和女子大)で、日本政府観光局(JNTO)の担当者が、観光庁の指示を受けて、試験開始前の約80名の試験官に対するブリーフィング(9:00~9:30)で、「**今年の第2次口述試験の合格率は、80%になるよう採点してください**」などとありえへん指示をしました。

国家試験実施当局者が、試験直前に試験官に対して、「**合格率は、80%になるよう採点してください**」などと指示することは、前代未聞のことであり、通訳案内士試験史上最大の不祥事でした。

● JNTO の担当者による5項目の指示内容

- (1) 合格率を80%になるように採点して欲しい。
- (2) 特に、合格不合格ギリギリの受験者には、受験者の将来を考慮して(←意味不明)、合格判定を与えて欲しい。
- (3) 2020年の東京オリンピックを控えて、これ(合格率を80%にして合格者を多数出すこと=JTBグループを大儲けさせること)は、国策です。
- (4) 私たち(JNTO)は、上(観光庁)からの指示に従わなければなりませんので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。
- (5) このことについては、一切、外部に口外無用にてお願いします。

●JNTO の担当者が説明した時の状況

JNTO の担当者は、約 80 名の日本人、外国人試験官を前にして、日本語で、上記の説明をしましたが、この部分は、口頭での説明のみで、試験官のマニュアル文書には、一切の記載はありませんでした。

これは、この事実が、後日、外部に露見することを恐れて、オフレコ状態での説明を当初から予定していたからと思われる。

外国人試験官に対しても日本語のみでの説明でしたが、外国人試験官には、日本語が分かる人も分からない人もいるのに、この点については、不徹底でした。

もっとも、fair(公正)精神が強いまともな外国人にとっては、このような理不尽なことは、到底受け入れがたいものですから、あえて、不徹底にしたものと考えられます。

もし、このことを各国語でマニュアル文書に記載されていたら、当日、試験官を拒否する外国人試験官も出ていたと考えられます。

●JNTO 担当者の発言を聞いた試験委員の証言

JNTO 担当者の発言を聞いた試験委員は、「JNTO(=観光庁)は合格者を増やしたいのだろうと思った。正直に言って、採点に影響した」とか、「おかしいと思った。合否のボーダーライン上の受験者への採点が甘くなったかもしれない」などと感想を述べており、合格基準に達しない受験者を無理やり合格させた可能性を明らかにしました。

●本件についての読売新聞の記事

読売新聞朝刊(2015年5月6日付)の33面のかなり大きなスペースをさいて、**通訳案内士試験<国策として80%の合格率を目指す！>**と題して、「**通訳案内士採点甘く?**」「**担当職員『国策で合格率増』**」「**試験委員、発言影響した**」との記事が掲載されました。

●<合格率 80%指示事件>の背景と結果

本事件は、多数の合格者を出すことにより、ガイド供給過剰を創出し、ガイド料金を下げたい大手旅行会社の意向を受けて、観光庁が JNTO に指示したものと考えられますが、その結果、2014年度第2口述試験の合格率は、**77.2%**を記録しました。

●観光庁の苦しい言い訳

本件は、元はと言えば、観光庁が JNTO に指示したことですが、読売新聞の記者の質問に対して、「JNTO が、試験委員に具体的に合格率を示したのであれば遺憾である」などと苦しい言い訳をしていました。

●事件を報じた読売新聞の記事

<http://hello.ac/yomiuri.pdf>

●事件の詳細

<http://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/f263db067120db161ac076c9505a057b>

【4】絶対ではない「ガイドライン」

以上から、「ガイドライン」は、あくまでも目安であり、**絶対ではない**ことを、受験者もよく理解しておく必要があります。